

【JCC水産業クラウドWG2012キックオフ議事録】

■日時 2012/04/10 (火) 14:00-15:30 IBM箱崎本社

■参加者 (順不同・敬称略)

岩手大学 地域連携推進センター

岩手大学 東京オフィス

岩手大学 三陸復興推進本部釜石サテライト

NPO法人埼玉ITコーディネータ

株式会社アットテーブル

株式会社インターネットイニシアティブ

株式会社ぐるなび 法人営業部門

株式会社ミダス・ジャパン

経済産業省 商務情報政策局情報処理振興課

経済産業省 商務情報政策局情報処理振興課

SinfoniaCloudテクノロジーズ株式会社

社団法人海洋水産システム協会 研究開発部トレーサビリティ研究会

社団法人食品需給研究センター

総務省 情報通信国際戦略局情報通信政策課

総務省 情報流通行政局情報流通振興課

総務省 情報流通行政局情報流通振興課

総務省 情報通信国際戦略局情報通信政策課

大日本印刷株式会社 C&I事業部

大日本印刷株式会社 C&I事業部IT開発本部

築地魚河岸三代目 千秋

東京海洋大学 産学・地域連携推進機構

東京工業大学 大学院イノベーションマネジメント研究科

ネットフォース株式会社

富士通株式会社 インテリジェントソサエティビジネス本部ビジネスインキュベーション統括部

富士通株式会社 ソーシャルクラウド事業開発室 事業開発統括部

富士通株式会社 パブリックリレーションズ本部

三重大学 生物資源学部 生物圏生命科学科

三重大学 大学院生物資源学研究科

三重大学 大学院生物資源学研究科

ミツイワ株式会社 新規プロジェクト本部

ミツイワ株式会社 新規プロジェクト本部

有限会社鮮魚の達人

■アジェンダ

	時間(目安)	テーマ	内容	所要時間(分)	スピーカー
1	14:00-14:05	オープニング		5	日本アイ・ビー・エム(株) 公共事業・SmarterCity 推進 部長 加茂 義哉
2	14:05-14:20	基調報告	ご活動状況とご活動を通じた課題認識	15	三重大学 生物資源学部 生物 圏生命科学科 准教授 勝川 俊 雄様
3	14:20-14:35	基調報告	ご活動状況とご活動を通じた課題認識	15	岩手大学地域連携推進セン ター教授 小野寺 純治様
4	14:35-14:45	活動報告	IBM活動状況(食のクラスター事 業・サステナブルな仕組みへの 取り組み等)	10	日本アイ・ビー・エム(株) AIS. スマーターコマース事業 開発 末次 信治
5	14:45-15:20	ご活動フィードバック並びに 意見交換	ご参加者からのご活動フィード バック並びに意見交換	45	参加メンバー
	15:20-15:30	ラップアップ	今後の予定他	10	日本アイ・ビー・エム(株) 公共事業・SmarterCity 推進 部長 加茂 義哉
	15:30-15:35	クロージング		5	日本アイ・ビー・エム(株) 執行役員 公共事業担当 志済 聡子

■ 実施概要

- 1) JCC水産業クラウドWG活動経緯(IBM加茂)
 - 第3回「ジャパン・クラウド・コンソーシアム」総会(2011/12/22開催)の「水産業クラウド検討WG」資料を使い活動内容を報告した。
- 2) 基調報告「勝川先生ご活動状況とご活動を通じた課題認識」(三重大 勝川先生)
 - 漁師→産地仲買→荷受け→小売り→消費者と、売買の対立と情報の分断があるため、「モノ」は流れても「情報」は流れない、といった課題がある。
 - トレーサビリティのニーズはあり、特に輸出業者、加工業者は切実である。
 - 一度現場を見てほしい。できるだけ早く現場を視察し、ニーズを知ることが必要である。また、現場からWGに参加してもらい、ビジョンを共有することが大事である。
- 3) 基調報告「岩手大学の水産復興への取り組み」(岩手大 小野寺先生、田村先生)
 - 岩手大学の地域連携について(小野寺先生)
 - これまで、21市町村と共同研究を実施、11市村と相互有効協定締結、6市が職員を派遣した。
 - H24.4.1に岩手大学三陸復興推進機構を設立した。大学と被災地域との間の課題として、水産系研究者の不在や現地までの距離が挙げられたため、釜石サテライトを中心に久慈市などにエクステンションセンターを設置した。

- サテライトとエクステンションセンターにはコーディネーターを常駐させ、水産業のニーズと大学の持つシーズをマッチングさせ、水産復興プロジェクトを支援する体制をとっている。
- 水産クラウドについて(田村先生)
 - 田村先生は、釜石サテライトのコーディネーターをしている。
 - 三陸復興推進機構では、日本の水産業を支える三陸を復興するため、産官学連携のもと「SANRIKU(三陸)海洋産業復興研究・教育拠点形成事業」を実施し、「三陸独自の6次産業化」を推進している。
 - 震災による資源への影響は、一部減少がみられるものの、それほど変化はない。
 - 漁業関係者のニーズは下記の通りである。
 1. 漁業者は、漁船の確保が一番であり、放射能への関心も高い。
 2. 若手漁業者は、これからがチャンスだと思っている。
 3. 水産加工業者も放射能への関心が高い。
 - 水産クラウド実現に向けては、自治体の協力が必要である。被災状況が比較的少ない自治体が候補となる。
 - 三陸では6月から漁期に入るため、6月中旬ごろに山根様や小川様に出張いただき、漁業者に対して夢のある話をしていただきたい。

4) 活動報告「IBM活動状況」(IBM末次)

- 「①入口と出口連携を推進するクラウド型コマースの実証」として「ケラアンくしろ実証事業プロジェクト」を紹介した。
- 「②サステナブルな6次産業化推進についての検討」として「6次産業ビジネス共通基盤サービス構築」構想を紹介した。

5) ご活動フィードバック並びに意見交換(参加メンバー)

- 有限会社鮮魚の達人
 - 食用にあまりならない魚であるが、料理次第でおいしく食べられる「マルソウダガツオ」を、漁師から“いい値”で買って、対面販売を行っている。
- 築地魚河岸三代目 千秋
 - 活動を小学館ビッグコミック連載「築地魚河岸三代目」に掲載している。4月25日号「不屈の三陸(後編)」にて岩手大学 釜石サテライトなどを紹介した。
- ミツイワ株式会社
 - ミツイワ社としての取り組みとして、三重神前浦で取れた魚をスーパーに直流通するといった活動を行っている。
 - 宮城県雄勝町にてスマート漁港推進協議会を立ち上げ、エコな漁港づくりの取り組みを行っている。
- 株式会社ミダス・ジャパン
 - 釜石にてNPOを立ち上げ、放射能測定開始に向けて準備中である。去年は賛否両論あったが、今年は専門員の確保ができた状態である。
- 株式会社アットテーブル
 - スーパーマーケットにおける販売促進活動の支援を行うアットテーブル社では、最近流通関係からの魚関連の問い合わせが多く来ており、対応している。
- 三重大学
 - 三重大学農学部では、平成24年度より、水産色をより強くする方針をとっている。
 - 水産業クラウドといったスマートシティへの取り組みは、「三重大学スマートキャンパス実証事業」と組み合わせ

せた事業にできないか、といった構想も持っている。

6) まとめ(IBM加茂)

- 今年はどこかで実証を行い、世の中に示していくのが我々の目標かと思う。部会の皆様が、現場に入って話ができるような活動地域を作っていきたい。
- いきなりICTの話をするのではなく、現場がどう儲かるかを示していきたいと思うので、部会の皆様のご意見やアイデアを今後も頂戴したい。

7) クロージング(IBM志済)

- 日本が厳しい中、打破し垣根を越えるのがITだと思う。この時代でも消費者は非常にデマンディングである。何か大きなプロジェクトを作り、若い人が飛び込めるような取り組みができればと期待している。